



図書館の変態：不変の中に変化を求めて……………	1
図書館とともに - 40年間をふりかえって - ……………	3
新図書館システムについて……………	5
ミニ・トピックス……………	7
2005年外国雑誌情報……………	8
平成17年度中央図書館カレンダー……………	10

図書館の変態：不変の中に変化を求めて

吉 田 春 彦

丁度25年前の1980年、医学図書館ニュースに『私と図書館』と云う題目で原稿依頼があり、一文を載せることになりました。その時の文を読んでみると、第一に蔵書の事、第二に図書館の有り様（小生の場合悪い、あるいは息抜き）第三に図書館サービスの事を簡単に書いてあります。考えてみると、この三つのキーワードは今日においても十分通用する命題であり、恐らく今後も手を変え、品を変えて図書館に求められます。当時は図書館、特に医学部図書館がどのようにして運営されていたのか考えも及ばず、25年後の現在大学が法人化されるとともに図書館運営の有り様を理解するに至り、図書館の有り様に思いを巡らす次第です。読み返してみると、少し硬い文章になったようですがご容赦願います。

拙文の載った当時の図書館ニュース内容（NO. 51, JULY, 1980）では、図書館の利用者は、前年度教官・研究者が5,500余人/年（1,038人、以下括弧内は平成15年）学生が15,800余人/年（7,188人）で、図書の館外貸し出し冊数は教職員6,200余冊/年（1,750冊）学生が4,200余冊/年（10,576冊）で数字が逆転しています。相互貸借サービスでは、他館から6.9件/日（11件）他館へは6.1件/日（17件）でほぼ拮抗しています。これらの統計数字

は、医学部に在籍する教官を含めた研究者と学生それぞれの図書館との関わり方を如実に示しています。第一に、研究者は研究に役立つ学術資料を、学生はどちらかと言うと講義の理解とレポートの作成資料すなわち図書の充実を図書館に求めています。第二に、四半世紀における研究者の利用減は後述する電子ジャーナルの普及に負うところ大で、研究者の貸し出し冊数にも如実に表れています。

社会のインターネット産業とその配信網の充実を背景に、数年前から政府の肝いりによるインターネットを利用した電子図書館への移行が推進されています。現在の本学図書館は本館（鳥取地区）医学部分館（米子地区）の別なく学術資料は電子ジャーナルによって瞬時に最新学術資料を取り寄せることが可能になり、研究者には大いに利用されています。また、学生はレポート作成にインターネットホームページを利用してこれも平均的以上のレポートを作成して提出します。これらは大変便利にインターネットを活用していることになりましたが、学生の場合本で探す労力を惜しんで必要な項目を瞬時に画面上に探し出して、所謂ヴァーチャル上で勉強を疑似体験したことにほかなりません。かくして、図書館に雑誌、図書の類は必要なくインターネットに接続

したコンピューター端末を置いておけばよいとの極論が罷り通る大学環境になりつつあります。

学問は一朝一夕になるものではありません。それぞれの学問体系は何世紀にも亘って先人が築き上げた結果である。大学人は、すべからく『少年老いやすく、学成り難し』あるいは『ARS LONGER, VITA BREVIS』なる熟語を知っています。今の学生は可哀相であると、よく聞きます。筆者らの学生時代と違って知識の量は格段に多くなり、しかも社会は即戦力を求めます。今の社会に人材を作り出す余裕はないようです。斯くして米国式効率が罷り通り、大学は件のような勉強疑似体験をした学生を送り出すはめになる、と嘆くのは筆者だけでしょうか。現在の医学的知識に照らしてみると、小生達が受けた医学教育には控えめにみてもかなり間違った部分があったようです。知識と云う‘点’の間隔が広がったせいであると思いますが、今思うに大学では知識そのものとともに知識を獲得するための努力に潜む智慧を学んだ様な気がします。結局のところ、学問の目的は知識欲を満足させるだけでは不完全で、知識を統合・構築して哲学へ昇華することにある、と筆者は今考えています。筆者の領域でみると、病変の広がりりと深さと云う三次元的構造を理解するためには何百枚にもなる連続切片を作って作図、再構築し、やっと一つの知識を得る努力する先輩の姿を見てきましたが、今日ではコンピューター上で比較的簡単に立体構造を組み立てることができます。

図書館は大学人（近年は地域も含まれる）に利用されて、初めて存在理由があります。利用者に喜ばれるサービスに徹するとともに利用者個人のプライバシーが確保されねばなりません。当然の理です。図書館は、情報を入手する場所として機能するだけでなく、大学で唯一個人的に思索を巡らす場所を提供しています。これは洋の東西を問わず、また図書館規模を問わず恐らく図書館の原点でありましょう。これがグループ勉強となると話がややこしくなります。最近の学生は一人で居たいとする反面、他人が気になるようでグループで勉強する傾向があり、その場所を図書館に求めます。確かに図書館であれば蔵書が手元にありわざわざ足を運ぶ苦勞（？）

はないわけです。この二つの相反する要求を図書館が同時に満足させるとなるととても現在の規模では不可能で、大きな建物が必要です。しかし、現在の大学、引いては図書館が置かれた状況はそれを許してはくれません。

ところで、図書館は現在どのようにして運営されているのか。医学部分館の事業内容をみるとインフラとしての製本・運営、サービスとして図書、雑誌購入（電子ジャーナルを含む）および電子的資料（文献検索）に大別されます。これらに要する費用の80%強は医学部と附属病院で賄われ、分館独自の予算はわずか17%余りに過ぎません。すなわち医学部分館は、組織上鳥取大学図書館の枠組みにあるにもかかわらず、実際は医学部がパトロンになって運営している状況です。支出の項をみると90%余りが外国雑誌（電子ジャーナルを含む）購入と電子的資料に当てられ、学生図書購入は2%に満たず、事実上新規購入はできない危機的状況に置かれています。このような現象は鳥取地区の本館でも同様です。医学部分館の購入雑誌は図書館に配架するようになっていますが、本館では購入雑誌は各研究室にあって図書館にはほとんど見あたらず、また両者とも学生用図書購入がままならない状況です。必然的に学生一人あたりの図書購入費は中・四国国立大学中最下位という有り難くない統計数字になっています。ここから‘雑誌本体は必要なく電子ジャーナル’との議論が出てくるわけですが然にらず。雑誌本体と電子ジャーナルは多くの雑誌では一体化されていて、利用者の利便性とは無縁の経済理論が優先しています。民間企業の側からみれば、企業の存立がかかっているわけであるから、当然であるわけです。図書館の有り様は、それを利用する大学人によって決まります。大学は平成16年4月より独立法人化され民間企業の競争原理が導入されることになりました。大学の歴史（この場合研究史）を反映する知的財産の蓄積による知的空間を提供するとともに、図書館は利用者が増加するように情報サービスを充実させ、多様な学生の利便性にも十分の配慮が迫られています。少ない資産を効率よく運用するためには、従来の利用者対運営者の図式から離れて、利用

者も図書館運用に参画してもらう必要があります。
そのためには今こそ、利用者の理解が必要で、図書

館は学生の協力を大いに期待しています。
(医学部分館長、医学部保健学科病態検査学講座教授)

図書館とともに - 40年をふりかえって -

山根文夫

1. 図書館に勤めて以来40年を大学の図書館一筋に働いてきた。よくも同じ職業でこんなに長く勤めてこられたのか不思議に思われる。今の世代から見ると、特異なことか奇異なことに捉えられるような気もする。大学の学生、教員が利用者ということで、サービスの内容、方向が見据えられるということもあり、ある意味ではたやすさはあるが、たえずサービスの品質が求められていたように思う。求められる結果を高く設定することが利用者への最大のサービスと考えれば、幾人の利用者に満足していただけなものかと、振り返れば不安と自信のなさで一杯である。コストパフォーマンスで評価すれば、給料を返さなくてはならない破目になるやもしれない。そうした中での安らぎは、何人かの学生が卒業時に訪ねてきてくれることであって、うれしくもあり、また、自己満足ではあるがサービスに対する満足度の指標としていたように思う。

現在のように電算化され、瞬時に図書が検索でき、卒論テーマの文献一覧が作成でき、必要な文献は学外手配で入手できるという時代になり、大変便利になった反面、利用者とのコミュニケーションが少なくなり、スピードと省力化は可能となったが、お互いに失った情報も多いことと思う。会話の中でもっと有益な情報と共感できる場面もあると思うと少し考えざるを得ない。これからのサービスには大事なことと強く感じている。

2. 大学図書館の40年を振り返るとき、まさにスタンダライゼーションな世界であった。法人化でいうところの個性化、自律化とは相反する世界であり、そのことがまた情報の地域格差がない、情報サービスの共有化、グローバル化へと繋がってきたように

思う。

勤務し始めの昭和40年前後は、まだ分類も目録も大学独自に定めた方法で資料整理を行っていたように思う。鳥取大学でも、当時は学芸学部図書館、農学部図書館、医学部図書館が別のキャンパスにあり(組織的には学芸学部図書館(附属図書館本館)農学部分館、医学部分館)それぞれの整理方法をとっていた。いまでは「個性化」というべきものかもしれないが、当時の図書館界ではこの標準化をテーマとして議論が交わされていた。結果として、昭和40年代後半には全国的に分類はNDC7版、目録はNCRを適用、それに加えた件名標目表の3点セットが国公私立大学の大半で使用されるようになったと記憶する。図書館整理業務の三種の神器でもあり、今日的には三位一体であろうか。こうした背景には図書・雑誌(情報ソース)は共有資源で、すべての利用者に対して等しく平等に情報を提供するという理念が図書館サービスの根底としてあり、そのための手段として整理業務の標準化は必要であったことと思われる。これが電算機の導入によって一気に加速されることになり、図書館業務の電算化を先行するいくつかの図書館で専用電算機の予算が計上され、文字情報を加工しながら分類、目録、件名などそれぞれの大学で必要とするカードの作成が可能とされてきた。その後国立大学図書館すべてに専用の電算機が導入され、整理業務、支払い、登録、オンライン目録、二次データベースの活用に発展している。そして、昭和61年に学術情報センターが設置されたことにより、全国的な共同目録データベースが形成され、全国で蔵書検索が瞬時に、そして相互貸借も可能となった。今後も学術情報センター(現:国立情報学研究所)を中心とし、大学図書館、研究

所などにより電子化された情報の発信が活性化され、電子図書館の整備充実が更に進展するものと思われる。

大規模大学から小規模大学まで、都市から地方、予算の規模にかかわらず同じレベルで情報が共有出来る世界が今日あることは、図書館人としての理念の追求がもたらした成果であろうと確信している。もっとも個の理念を前進、発展させたバックボーンとして、国立大学図書館協議会（現：国立大学図書館協会）の力と支えがあったことは言うまでもない。文部省（現：文部科学省）との連携で、指定図書、学生用図書、大型コレクションなどの予算化、図書館電算機の導入、夜間開館（時間外開館）の実施、学術情報センター設置、外国雑誌経費の確保、外国雑誌センター館の設置、参考業務要員の配置、電子ジャーナル経費の配分、ブックディテクション、自動貸し出し返却装置の設置など数々の課題とテーマが等しく各大学に実現されてきた。競争時代の法人組織であっても、図書館間の連携と協力が必要であり、より発展的な図書館になるためにも重要な役割を担う組織として存在することと思われる。

なお、まして重要な役割を果たしたのは、図書館人としてのネットワークであったように感じている。特に地方大学にあってはどうしても情報の過疎になりがちであり、中央の動向を素早くキャッチ出来るヒューマンネットワークとリレーションがどうしても必要であった。今後も東西南北へ、さらにはグローバルなヒューマンネットワークの構築が図書館の発展に欠くことのできない条件であろうと思っている。

3.社会貢献は中期目標で取り組む重要な事柄であり、図書館としての機能を十分に発揮できる場でもある。大学という敷居の高さと資料の専門性ということで利用者への疎外感が充満していた時代と違い、60年代初め社会から要請されてきた大学の開放に加え、生涯学習社会へと進展した今日では、大学図書館を利用する人は増えてくるものと思われる。そのため、資料を仕掛けとして様々な図書館活動の展開が考えられる。それにより地域社会への参画機

会は増え、図書館を通しての大学への期待感は一層ふくらむものと思われる。資料（情報）を核とした幅広い活動が望まれる。

しかしあくまでも大学図書館利用者の主役は、学生と教員であり、教育と研究の支援として大学図書館が存立することを忘れてはいけぬ。より高度な研究、学習のための環境作りに「人・経費・施設整備」は40年間思い抱いた永遠のテーマであった。大学図書館にとってはこれからも多くの課題が出てくるものと思われる。大学図書館だけにとどまらない館種を越えた広い連携と協力によって克服できるものと信じている。

この40年間、図書館のあり方を戦後から始まった単位制教育の理念と絡ませてきたが、まだ十分に図書館が活用されていないように映る姿を内なる世界（図書館）から眺めてきた。教育改革のテーマでもある単位制教育の活性化のためにも図書館が舞台となり、まさに大学の心臓とならんことを期待する。

（学術情報部長）



新図書館システムについて

平成17年3月1日から新図書館システムが稼働していますが、それに伴い各システムがより使いやすく便利になりましたので、その概要を簡単に紹介します。

1. 貸出・返却

図書の出借・貸出期間の延長・返却を、利用者が自分で自動貸出返却装置で行えるようになりました。

自動貸出返却装置を利用するには、

* 学生の皆さんは、

学籍番号と学務支援システムに登録しているパスワード(大文字は小文字に変換)

* 教職員・学外の皆さんは、

図書館利用者カードに記載されている8桁の利用者番号とあらかじめ図書館で登録したパスワードが必要です。

パスワードの登録がお済みでない方は登録をお願いします。

2. Webからの文献複写・現物貸借申込み(教職員のみ)

利用者カードの利用者番号と、登録したパスワードでログインして、Webから文献複写・現物貸借の申込みができます。

このシステムでは、申込内容の訂正やキャンセル、過去の申込み内容をWeb上で確認できます。

また、連絡先のメールアドレスやパスワードなどの利用者情報もWebから変更することができます。

3. Webからの図書購入依頼(教職員のみ)

上記文献複写・現物貸借申込みと同様に、Webから図書購入依頼ができます。

依頼内容の訂正やキャンセル、過去の依頼内容の確認、連絡先のメールアドレスやパスワードなどの利用者情報の変更も同様にWebから可能です。

購入依頼の際、国立情報学研究所の図書データベースを参照して選書を行うことができます。

4. 予算執行状況照会(教職員のみ)

Webから各先生、講座単位で運営費交付金、科研費等の予算毎の図書購入執行状況を照会することができます。

5. O P A C (蔵書検索システム)

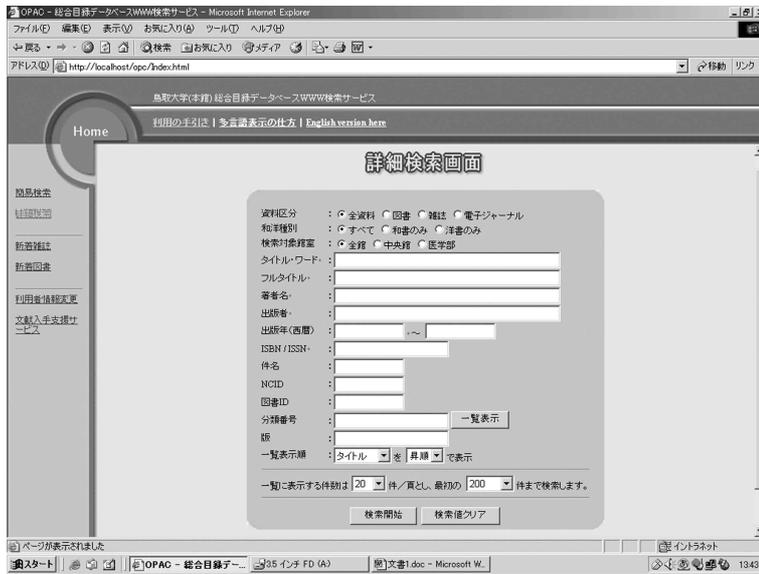
鳥取県立図書館など鳥取県内図書館の所蔵検索を一度に行うことのできる横断検索機能、利用状況・新着図書の紹介、同じ検索条件でNacsis Web-catを検索する機能など新しいサービスを提供します。

図書館ホームページの「鳥取大学OPAC」をクリックすると、簡易検索画面(図1)が表示されます。ここで思いついた単語や言葉を入力して検索してください。漢字やヨミからも検索できます。より詳しい検索を行う場合は、詳細検索画面(図2)でおこないます。

(図1)



(図2)



検索方法

入力した単語や言葉の前方一致で探すことができます。例えば、“japan*”と入力して検索すると、“japanese”など語尾変化したのものも探し出します。これは、日本語でも有効です。一方、雑誌の“science”を探す場合は、詳細検索の「フルタイトル」で検索してください。

複数の言葉で検索する場合は、「スペ - ス」で区切って入力すると、AND 検索になります。「|」で区切って入力すると、OR 検索になります。例えば、タイトル入力欄に“地球 環境”と入力すると、タイトルに“地球”と“環境”の二つの言葉があるものが探し出され一覧表示されます(図3)。

(図3)



一覧表示画面から任意のタイトルをクリックすると詳細な書誌情報と所蔵情報が表示されます(図4)。

(図4)



ミニ・トピックス

公開展示と講演会（16年度第2回）を開催

平成17年1月17日から31日までの二週間にわたり、「四季を書く - 全国大学書道担当教官作品から - 」と題した一般公開展示を附属図書館玄関ホールで開催しました。当館では、平成12年度に鳥取県民文化会館で開催された全国大学書道学会会員書作展の展示作品を受贈してそれをテーマごとにご紹介していますが、今回はこのシリーズの第3弾として、「四季を書く」をテーマに四季折々の情景や咲く花々の美しさなどが書道家の眼を透して表現された20点を展示しました。新聞等のマスコミでも紹介され、

連日学内外からのたくさんの見学者で賑わいました。

また、その間の1月21日に本学地域学部の住川英明助教授を講師に招き、「書の表現と技法 展示作品の解説にかえて」の講演会を一階会議室で開催しました。講演では、書の様々な技法、それらの鑑賞法等について説明があり、学内外から集まった約30名の参加者が興味深く聴き入っていました。この後、引き続いて展示資料を実際に見ながら詳しい解説があり、大変好評を博しました。



平成17年度附属図書館委員会委員（平成17年4月1日現在）

附属図書館長	和泉 好計 (17.4.1~19.3.31)	連合農学研究科	森 信寛 (15.12.20~17.12.19)
医学部分館長	吉田 春彦 (16.4.1~18.3.31)	地域共同研究センター	岡本 尚機 (15.12.20~17.12.19)
地域学部	田中 仁 (15.12.20~17.12.19)	生命機能研究支援センター	森本 稔 (17.4.1~19.3.31)
"	住川 英明 (16.12.20~18.12.19)	乾燥地研究センター	井上 光弘 (15.12.20~17.12.19)
医学部	前田 隆子 (15.12.20~17.12.19)	医学部分館(運営委員)	松浦 達也 (17.4.1~19.3.31)
工学部	松原 雄平 (15.12.20~17.12.19)	大学教育総合センター	田畑 博敏 (16.4.1~18.3.31)
"	吉井 英文 (16.12.20~18.12.19)	総合メディア基盤センター	山岸 正明 (17.4.1~19.3.31)
農学部	伊藤 啓史 (16.12.20~18.12.19)		
"	真鍋 久 (15.12.20~17.12.19)		

2005年外国雑誌情報

【新規購入雑誌】

American Journal of Pathology.	アメリカ	農	島田
Annales historiques Revolution Francaise.	フランス	地	柳原
Computational Linguistics.	アメリカ	工	知能情報
Empirical Software Engineering.	アメリカ	工	社会開発
IEEE Transaction on Neural Networks.	アメリカ	工	知能情報
Juristische Wochenschrift.	ドイツ	地	中村英
Offentliche Verwaltung.	ドイツ	地	相澤
PC Magazine.	アメリカ	大教セ	サージャント
Public Performance & Management Review.	アメリカ	地	小野
UN Chronicle.	アメリカ	地	ケイツ

【中止雑誌】

Accounts of Chemical Research.	アメリカ	工	物質工学
Archive of Applied Mechanics.	ドイツ	工	土木工学
Art Education	アメリカ	地	島崎
ASCE: Civil Engineering.	アメリカ	工	土木工学
Autonomous Agents and Multi-Agent Systems.	アメリカ	工	知能情報
Bridge Design & Engineering.	イギリス	工	土木工学
British Educational Research Journal.	イギリス	地	高口
British Journal of Sociology of Education.	イギリス	地	高口
Canadian Journal of Civil Engineering.	カナダ	工	土木工学
Chemical Reviews.	アメリカ	工	物質工学
Comptes Rendus de l'Academie des Sciences - Serie I - Mathematique.	フランス	工	知能情報
Concrete.	イギリス	工	土木工学
Crop Science.	アメリカ	農場	中田
Culture & Psychology.	イギリス	地	高取
Current protocols in Protein Science.	アメリカ	工	生物応用
Deutsch als Fremdsprache.	ドイツ	大教セ	渡邊
Engineering Journal.	アメリカ	工	土木工学
Engineering Structures.	イギリス	工	土木工学
Experiments in Fluids.	ドイツ	工	機械工学
Forest Products Journal.	アメリカ	農	作野友
Functional Plant Biology.	オーストラリア	乾	稲永
Fungal Genetics and Biology.	アメリカ	農	尾谷
Genetics.	アメリカ	農	辻本
Geomechanics Abstracts.	イギリス	工	土木工学
Hereditas.	スウェーデン	農	辻本
Inhalation Toxicology.	アメリカ	農	家畜病理
Interfaces.	アメリカ	工	社会開発
International Economic Review.	アメリカ	工	社会開発
International Journal for Numerical and Analytical Methods in Geomechanics.	イギリス	工	土木工学
International Journal of Adhesion and Adhesives.	イギリス	農	作野友
International Journal of Heat and Fluid Flow.	イギリス	工	機械工学
International Journal of Robotics Research.	アメリカ	工	知能情報
International Water Power & Dam Construction.	イギリス	工	土木工学
Journal / American Water Works Association.	アメリカ	工	土木工学
Journal of Aesthetic Education.	アメリカ	地	寺川

Journal of Applied Probability.	イギリス	工	土木工学
Journal of Combinatorial Theory. Series A	アメリカ	大教セ	石川雅
Journal of Environmental Quality.	アメリカ	農	猪迫
Journal of Fluid Mechanics.	イギリス	工	機械工学
Journal of Heredity.	アメリカ	農場	中田
Journal of Lie Theory.	ドイツ	大教セ	井上順
Journal of Organic Chemistry.	アメリカ	工	物質工学生物応用
Journal of Philosophical Logic.	オランダ	大教セ	田畑
Journal of Philosophy.	アメリカ	大教セ	田畑
Journal of Strain Analysis for Engineering Design.	イギリス	工	機械工学
Journal of the American Water Resources Association.	アメリカ	農	北村
Journal of the Institute of Wood Science.	イギリス	農	作野友
Kunst und Unterricht.	ドイツ	地	島崎
Library Quarterly.	アメリカ	図	図書館
Lire.	フランス	大教セ	松本雅
Marine Georesources & Geotechnology.	イギリス	工	土木工学
Mathematica Scandinavica.	デンマーク	工	知能情報
Mathematical Programming.	ドイツ	工	知能情報
Mathematics of Computation.	アメリカ	大教セ	後藤
Mathematische Annalen.	ドイツ	大教セ	井上順
Microbiology.	イギリス	農	北本
Molecular Plant Pathology.	イギリス	農	尾谷
Natural Product Reports.	イギリス	農	中島
PCI Journal.	アメリカ	工	土木工学
Physiologia Plantarum.	デンマーク	農	田辺
Physiologia Plantarum.	デンマーク	農	真鍋・藤山
Physiological and Molecular Plant Pathology.	イギリス	農	尾谷
Plant and Soil.	オランダ	農	真鍋・藤山
Plant Breeding.	ドイツ	農	辻本
Plant Molecular Biology.(冊子+電子ジャーナル)	アメリカ	農	田辺ほか
Plant, Cell & Environment.	イギリス	農	真鍋・藤山
Planta.	ドイツ	乾	稲永
Probabilistic Engineering Mechanics.	イギリス	工	土木工学
Probabilistic Engineering Mechanics.	イギリス	工	社会開発
Proceedings of the Institution of Civil Engineers. (8 parts)	イギリス	工	土木工学
Reliability Engineering & System Safety.	イギリス	工	土木工学
Revue de l'art.	フランス	地	高阪
Robotics and Computer Integrated Manufacturing.	イギリス	工	知能情報
Sociology of Education.	アメリカ	地	高口
Soil Science Society of America Journal.	アメリカ	農	田熊
Structural Engineer.	イギリス	工	土木工学
Structural Safety.	オランダ	工	土木工学
Studia Logica.	オランダ	大教セ	田畑
Thin-Walled Structures.	イギリス	工	土木工学
Time Literary Supplement.	イギリス	地	和田
Toxicologic Pathology.	イギリス	農	家畜病理
Traffic Engineering and Control.	イギリス	工	社会開発
Transactions of ASME. E:Journal of Applied Mechanics.	アメリカ	工	土木工学
Visual Arts Research.	アメリカ	地	寺川
Wood Science and Technology.	ドイツ	農	作野友
Young Children.	アメリカ	地	寺川
Zeitschrift fuer Semiotik.	ドイツ	大教セ	渡邊

平成17年度 鳥取大学中央図書館カレンダー

通常：9:00～21:00

試験期：9:00～22:00

図書整理日：13:00～21:00

土日祝日開館日・休業期の平日：9:00～17:00

休館日

2005 4 Apr						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 May						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 Jun						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 Jul						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8 Aug						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9 Sep						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10 Oct						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 Nov						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 Dec						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2006 1 Jan						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2 Feb						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3 Mar						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

鳥取大学附属図書館報 第105号(2005年4月発行)

編集・発行：鳥取大学附属図書館 〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101 ☎0857-31-6728
ホームページアドレス <http://www.lib.tottori-u.ac.jp>